

「大腸癌診療マニュアル」

自治医科大学助教授・消化器一般外科 小西 文雄 著

京都がん協会消化器科

多 田 正 大

本書の著者・小西文雄先生は私が最も尊敬する外科医の一人である。私が消化器の手術を受けるとすれば、迷うことなく小西先生に執刀をお願いしたい……。そのような先生である。外科医としての卓越した腕を持ち、しかも時代の最先端をゆく研究で学会を主導しており、まさに“今が旬”のリーダーである。

小西先生は大腸疾患の病理と臨床のメッカとして名高い英国 St.Mark's 病院で研鑽したご経歴があるが、その影響もあってか、特に大腸癌や炎症性腸疾患に関する豊富な手術実績と研究を継続している。その成果に対して、内外で極めて高い評価がされているのは周知の通りである。それだけに本書は小西先生の得意の分野を、自らの経験に基づいて企画・構成しており、充実した内容になっている。大腸癌や関連疾患の診療にあたっての基本的な手技、諸注意事項やポイント、最近の話題にいたるまでを要領よく解説した書籍であり、多忙な実地医家、短期間に多くを学ばなければならない研修医にとって有難い手引書、入門

書である。

本書は診察のコツ、便潜血検査から始まって、内視鏡治療、外科治療はもちろん、予後に至るまでの大腸癌診療のアラカルトがこのコンパクトな書籍に満載されており、もちろん消化器科専門医にとっても便利な参考書である。注腸 X 線検査や内視鏡検査の項は頁数の関係で縮小せざるを得なかったようであるが、治療と予後の項は大著に負けないほど充実しており圧巻である。著者の外科医としての大腸癌診療にかける意気込みと情熱を表す真骨頂であろう。

内科医は大腸癌を発見して外科へ患者を送れば、あと(予後)は知らないことが多いが、臨床で本当に大切なことは外科治療後に患者がどうなったのか……である。本書を通読して、改めて大腸癌の予後の重要さを感じられるし、逆に早期診断の重要性についても教えられることが多い。患者のためになる診療を実践している小西先生のポリシーを知ることができる構成であり、診療マニュアルと言えども、内科医ではとうてい

い書けないようなすばらしい内容であり、改めて感服させられる。

記述されている文章は簡潔明瞭で、難しい診療のコツが理解しやすい。他人に自分の意思を明確に伝えるにはどうすればよいか、小西先生が日ごろから考え、実践している手法をそのまま文章にしたものであり、読者にとって読みやすい。しかも白衣のポケットに入るコンパクトサイズであり、診療に困った折に気軽に取り出して読むことのできる信頼できるハンドブックに仕上がっている。日常臨床でうっかりすると忘れがちな項目が網羅されており、専門医を標榜する医師にとっても、研修医にとっても便利な必携の本が刊行されたことを喜びたい。マニュアルとはこうあるべき……。お手本になる書籍であるから、是非とも多くの読者に活用してほしいヒット作である。

● A5 頁 168 図 57 写真 42
カラー写真 23 色図 9 表 32
1998 定価(本体 4,500 円+税)
〒400

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)